

女王谷にある丹巴^(注1)の山奥の正月(農業暦)を見ていると50年前の日本の農村に有ったような和んだ伝統的な風情を思い出して懐かしい気分になります。それは自然に調和した豊かな生活様式が有ってこそ可能になるものだと思います^(注2)。

大晦日から正月初日と2日目に掛けてはほとんど家でんびり過ごし、大好きな肉料理や羽根蹴り等を楽しみます(写真1)。また正月初日には平屋根の一角に在る烽火台で芳しい柏木の葉を焚きながら法螺貝を吹き鳴らし、囲炉裏でも柏木の葉を焚いて家を清めます。

正月3日目になると集落の近くに有る廟に老いも若きも集まって正月を祝い合い(写真2)、古くからのボン教の作法で豊作と平安を祈り(写真3)廟の周りを左周りに廻りながら(チベット仏教は右廻り)家族の幸せを念じます(写真4)。その後数日間は親戚を挨拶廻りしたり村の寄り合いで綱引き(写真5)等を楽しみますが、そんな時は子供達も集まって来て仲良さそうにトランプ等に興じる姿(写真6)が見られます。



写真1 中国伝統の遊び、羽根蹴り(毽子(jiànzi ジェンズ))を楽しみます。額に塗られた赤い色は潰した鶏の血です。これは「第三の目」で幸運をもたらすとされています^(注3)。



写真2 集まって正月を祝う



写真3 古くからのボン教の作法で豊作と平安を祈ります



写真4 廟の周りを廻って家族の幸せを祈るチベットの女性たち



写真5 村の寄り合いで綱引き



写真6 子供達も集まって来て仲良くトランプ等に興じる

■注記

- 1)「地球の歩き方 成都・九寨溝・麗江 09-10」P94～101に四姑娘山が掲載されていますが、隣接する見所の一つとして丹巴が追加されました。
- 2) この点で同じ女王谷の四姑娘山麓の集落は、観光開発の進展とほとんどの農地を政府へ売却した事、それに地震で壊れた家を現代風に改築した事が重なり、金銭への依存が大きい生活様式に変わりました。また丹巴でも、観光開発が進んだ一部地域では昔の人情味が薄れて金銭への依存が大きい生活様式に変わりました。情報化が進んだ今日では他と隔絶した伝統的生活を維持する事が難しく、当地の生活様式も徐々に変質しつつあります。
- 3) 潰した鶏の血を額に塗る習慣は、今ではほとんど絶えた鳥占術の作法(隋書の女国伝や唐書の東女国伝等に記載されています)に関わっているかも知れません。「第三の目」はボン教やボン教起源のチベット仏教の神像に描かれています。古代ボン教に関わりを持つヒンズー教の文化圏でも見られます。「第三の目」の開眼はボン教やチベット仏教の法主の重要な修行の一つです。